

基本的な学習習慣を身に着け、学力を向上させよう
—学力向上の12のポイントの活用を—

開倫塾
塾長 林明夫

Q 開倫塾では、基本的な学習習慣を身に着けることで、学力向上を図ろうとしているようですね。

A (林明夫。以下省略)

はい。開倫塾では、効果の上がる学習方法を「学習の3段階理論」としてまとめ上げ、塾生の皆様の学力アップに活用しています。

学力アップに一番大切なことは、基本的な学習習慣を自分自身の力で身に着けることです。それに役立つように、開倫塾では、「学習の3段階理論」をもとに「学力向上の12のポイント」を策定しました。

そして、その12のポイントがどのレベルまで身に着いているかをセルフチェックするために、七つのレベルに分けた「チェックリスト」を作成しました。

塾生の皆様は、このチェックリストを使って、「学力向上の12のポイント」のそれぞれについて自分の現状をセルフチェックし、すべてのポイントを完璧にするにはどうしたらよいかを考えることが大切です。

Q 学力向上の12のポイントとは、どのようなことですか。

A それらは、

- (1)定期試験・検定試験・第一希望校の入学試験などに対し、具体的な目的や目標を持って学んでいるか。
 - (2)次回・次回以降・次学年・上級学校の授業内容の予習をしているか。
 - (3)学校や開倫塾などでの授業が終わったら、そこで学んだ内容の復習をしているか。
 - (4)教科書や教材、ノートなどのよく「理解」できた内容について、スラスラとよく読めるようになるまで音読練習をしているか。
 - (5)よく「理解」でき、音読練習をした内容について、教科書の書体(楷書)で書き順も含め正確に書けるようになるまで書き取り練習をしているか。
 - (6)なぜそのような解答になるのかがよく「理解」できた計算・問題について、問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るようになるまで計算・問題練習をしているか。
 - (7)定期試験に向けては、どのくらい前から試験対策をしているか。
 - (8)模擬試験では、本番のどのくらい前から試験対策をしているか。
 - (9)3大検定(英語検定、漢字検定、数学・算数検定)に対しては、どのくらい前から対策をしているか。
 - (10)辞書をどのように活用しているか。
 - (11)新聞を読んだり活用したりしているか。
 - (12)教科書で紹介されている本や図書館にある本などを、月に何冊読んでいるか。
- 以上の12です。

Q チェックリストの七つのレベルとは、どのようなものですか。

A A0からC2まであり、それぞれを

A0…取り組みが全くなし

A1…初級のはじめ程度

A2…初級の中～上程度
B1…中級のはじめ程度
B2…中級の中～上程度
C1…上級のはじめ程度
C2…上級の中～上程度
としています。

具体的には、例えば(3)の「復習」では、

A0…復習は全くしていません。
A1…授業が終わったら、教科書や教材、ノートに一通り目を通しています。
A2…授業が終わったら、教科書や教材、ノートを一語一語ていねいに読み返しています。
B1…授業で解いた計算や問題をもう一度解き直しています。
B2…復習をしていてわからないことがあったら、辞書や参考書などを用いて徹底的に調べています。
C1…授業の前日や前には、教科書や教材、ノートなどを1ページ目から復習しています。
C2…授業で学習した内容に関係することは、学年をさかのぼって復習しています。

また、(11)の「新聞」では、

A0…新聞は全く読んでいません。
A1…新聞は時々読みます。
A2…新聞は毎日読みます。
B1…新聞は毎日スミからスミまで読みます。
B2…興味がある記事は、書き写したり、スクラップをしたりしています。
C1…毎日、学校や近くの図書館で複数の新聞を読みます。
C2…自分の興味・関心のあるテーマについて、新聞をもとに自分の考えをまとめ、自分で考える力、批判的思考能力を身に着けられるようにしています。

このように、一つのポイントについて七つのレベルに分け、自分の現状がどれに当てはまるかをセルフチェックできるようになっています。

これを12のポイントすべてで行うと、自分の不十分なところが把握できます。そこに特に力を入れながら全ポイントがC2になるように努力すると、基本的な学習習慣が身に着きます。そして、学力アップにつながります。

Q 最後に一言どうぞ。

A 開倫塾では、「学力」を「自分から進んで学ぶ力」「主体的に学ぶ力」としています。この意味での学力が身に着くと、多様な選択肢のある人生を歩むことができます。また、地域の教育力向上、正常に機能する社会・持続可能な社会の形成に役立ちます。

ですから、「学力向上の12のポイント」とそのチェックリストを活用して、学力を少しでも高めてください。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)